

花野たより

NPO法人阿蘇花野協会会報誌

VOL. 11号 2008年2月29日発行

2007. 冬号

草刈り、草集め、お疲れさまでした。
もうすぐ、春の野焼きです。

「花野」の再生をめざして三年。
理事 瀬井 純雄

2008年度の活動予定



10月14日、草刈り。 お疲れさまでした！

毎年秋のハードな作業、草刈りと草集め。

10月14日の日曜日、まずは草刈りでした。

しかし、大学の試験やら、仕事のスケジュールやらとの調整が難しい方が続出！

下の集合写真をご覧になればお分かりのように、参加者は撮影者の筆者を含めても11名。これは地獄と覚悟を決めたせい、草を刈る面積を少なく制限したためか、意外にラクでしたね。もちろん、私たちの“慣れ”のせい、否、“修練のたまもの”でもあります。

さて、次年度の草刈りはどうなることやら。

皆さん、ぜひご参加を！ほんとに、ほんとに、お願いします。

▼草刈り参加者の皆さん。
勇者たちと呼びたい。



▲▼慣れると草刈機はとても楽しい。
でも、なめてはいけません。油断禁物。

▼筆者の道具。
草刈機とナップザック。もちろん、
草刈機は個人所有ではなく、花野
協会の備品です。



INFORMATION

2008年の活動計画

■野焼き	3月20日（祝・木）	※予備日	3月23日（日）
■阿蘇野の花観察会	4月29日（祝・火）		
■阿蘇野の花観察会	7月13日（日）		
■阿蘇野の花観察会	8月3日（日）		
■草刈り	10月12日（日）		
■草集め	10月19日（日）		

※これらの活動にあたっては、毎回、メール等にて参加を募り、事前に参加者を確定した上で実施いたします。

10月21日、草集め。 もっと、お疲れさまでした！



1週間後の10月21日、日曜日。これがウワサの草集めです。先週刈った草は、干されて茶色くなっています。これを斜面からかき集める作業です。

集めた草は機械を使って圧縮成型して、業者さんに買い取ってもらいます。無駄な草が無駄ではなくなる。草が刈られて、希少植物が顔を出す。不思議な循環ですね。

▼ムラサキシセンプリ



- A 干し草を鎌や熊手を使ってかき集める。
- B かき集める。かき集める～！
- C ロープで縛って下ろすとラク。
- D 干し草成形マシンが待ちかまえている。
- E こんな風に四角く圧縮。
- F 参加者の皆さん。来年もよろしくです！





「花野」の再生をめざして三年。

理事 瀬井純雄

阿蘇には広大な草原が広がっていますが、ハナシノブやツクシマツモトなどの阿蘇に特有な植物はどこにでもあるというわけではなく、山東原野(阿蘇郡高森町の外輪山上の原野)や波野原(阿蘇市波野地域)など阿蘇東外輪を中心に分布しています。この地域は、戦後の拡大造林政策によってほとんどの草原が植林地となったうえ、1991年の牛肉自由化後、残された草原もその面積が半減しています。このままではこの地域の草原は消滅してしまい、そこに生きる阿蘇固有の植物たちも絶滅してしまうという厳しい状況となっていました。そのため、2004年3月、有志が集まって阿蘇固有の植物が豊富に自生する阿蘇郡高森町野尻で、放棄された原野約1.0haに防火線を作って野焼きを行い草原として再生しました。

そして2004年10月、「阿蘇花野協会」を設立し、たくさんの人の協力を得て、2005年3月には周辺の6haの放棄地の防火線づくりを行い、協会としては第一回の野焼きを行って草原を再生しました。さらに、1haの草原については、昔ながらの採草(秋の刈り干し切り)を行い、阿蘇の野の花が豊かに咲く「花野」として再生させるための取り組みを行ってきました。その後、これまで三回の野焼きや草刈り、草集めなどの取り組みを通じて、ユウスゲやヒメユリ、ヤツシロソウなど、かつて群生していた野の花が次々と復活してきています。特にヒメユリは、地元の人に「昔が蘇ったごたる。」と言われるほど、見事な復活ぶりでした。また、今年はそれまでなかったツクシマツモトの群生地が出現し、野焼きや草刈りの効果の程を実感したところです。

放棄地を元の草原に戻すには、野焼きが最も簡単で有効な方法ですが、周りは植林地に囲まれているため、延焼の恐れのあるたいへん危険な作業です。また、採草もほとんどが急斜面のため機械化はできない状況で、刈り払い機を使って広い面積を刈り取っています。さらに、刈り取った草を集める作業も急斜面のため、たいへんな重労働であり、「自然保護」の大変さを、会員一人一人身をもって感じているところです。それでも、仕事をした後の爽快感、春・夏に幻の植物たちが復活したときの喜びはひとしおで、会員の皆さんの中には毎年来ていただいている人もたくさんいます。本当にありがたいことです。

草原を守るための作業の一つ一つは素人にとっては難しいものです。地元の農家の人たちの指導を受け、知恵を授かりながらの作業です。「汗を流し、ひっかき傷を作り、土にまみれ」ながら、自然の不思議な仕組みに驚きつつ、今後も地道にこつこつと「花野」の再生ができればと願っています。



観察会での瀬井理事の説明。
歩いて、見て、ふれて、聞いて。花野は身近なものになります。

発行



NPO法人

阿蘇花野協会

〒862-0912 熊本市錦ケ丘3番15号 TEL&FAX 050-6620-8306
E-mail: info@asohanano.com URL: www.asohanano.com/